

事業の背景・目的

ツシマウラボシシジミは対馬に生息しているが、シカの食害により食草が減り個体数が激減している。当園では平成29年度よりツシマウラボシシジミ生息域外保全事業を行っている。現在飼育個体の無精卵数が増加しており原因究明のため実験を計画中である。フサヒゲルリカミキリは岡山県、長野県の高原に生息しているが、乱獲等により個体数が激減している一方、本種は昆虫園等施設内における安定的な飼育繁殖方法が確立されていない。個体を導入し飼育方法の確立を目指す。

事業の内容

ツシマウラボシシジミ生息域外保全事業

- ・無精卵数増加の要因を、①オスの管理温度が低い、②メスの再交尾によるものと仮説を立て交配時期に実験を行った。
- ・交配は4月、6～7月、9月の3回実施し、それぞれ165、238、262個体の幼虫を飼育。9月交配分の個体の休眠、休眠解除を実施。幼虫222個体の生存を確認。
- ・生息域外保全についての展示は6/1～10/4にチョウの飼育スペース前で実施。



フサヒゲルリカミキリ生息域外保全モデル事業

- ・成虫1ペアを導入し、飼育を再開。前回同様室内飼育に加え、鉢植えに産卵させる方法を実施。
- ・室内での飼育は30個体の幼虫を前年度導入したインキュベータで管理。現在13個体が生存中。
- ・鉢植えに産卵させたものに関しては、外部から姿を確認することが困難なため、正確な個体数は不明。19鉢25本の花茎に産卵痕が確認されているが、産卵されていなかったもの、室内飼育に移行したものも含んでいる。



得られた成果

- ・実験の結果として、オスの管理温度が低いと交尾させるのが難しい傾向にあることがわかった。しかし、20℃で管理したオスと交尾したメスが無精卵を産む例が確認される等結果にばらつきがあった。そのため、明確に無精卵数増加の要因であると判断はできなかった。羽化後の管理温度については温度以外に別の要因があると思われる、その一つに給餌回数が少ない可能性が考えられる。また再交尾の影響についてはいずれの場合においても孵化幼虫は確認され、今回の結果から成虫の再交尾については問題ないものと考えられる。
- ・フサヒゲルリカミキリの成虫の飼育、採卵、孵化に成功した。飼育には食草として知られるユウスゲの他、ヘメロカリス属の園芸品種を代用食として使用可能であることが確認された。前回課題となった休眠中の個体管理の対策として、飼育容器である試験管に栓をする、試験管ごと虫かごの中に入れ送風が直接当たらないようにする等で休眠器材の乾燥を防ぎ、休眠幼虫を生存させている。
- ・事業終了後、足立区の承認を得ることができれば継続する見込み。